

## 海候校第20期生会 推薦図書

「手塚(てづか)正己(まさみ)著『凌(しの)ぐ波濤(はとう)——海上自衛隊をつくった男たち——』発行所(株)太田出版 2010.8.15 第一版第一刷発行 定価(本体3500円+税)」を推薦します。我らの谷川清澄練習艦隊司令官(R)が全章に亘って登場されます。

谷川清澄司令官(R)の御挨拶は次のとおりです。

### ごあいさつ

かつて『軍艦武藏』を書いた作家が「終戦直後を中心にした其の前後の旧海軍と海上自衛隊のことを書きたいので御協力ください。」と言って来た。「俺は平凡な一海軍士官に過ぎなかったので脇役的な登場ならばいいよ。」と返事したところ、「三十数名の方に取材中なので其のようになります。」とのことで安心していた。

ところが蓋を開けて見ると、何時の間にか主役に成っていた。「約束が違うではないか！」と文句を言ったところ、「何時の間にかこの様になって相済みませんでした。貴方の七転び八起きの人生がとても面白かったので、この様になってしまいました。これも、旧海軍のため海上自衛隊のため国家のためですから、我慢して下さい。」と懇願され、気の弱い小生とうとう承諾させられてしまった。

御暇の時、御笑読くだされ度(たし)。

谷川清澄

著者の略歴は次のとおりです。

- 1946.12.15 長野県生れ～東京育ち～日本大学芸術学部中退～フリー助監督～  
岩波映画製作所でドキュメンタリー映画・テレビ番組を演出～
- 1989 プロダクション“シネマジヤパン”設立～
- 1991 長編ドキュメンタリー映画「軍艦武藏」の製作監督～
- 2003 長編ノンフィクション『軍艦武藏』の上梓～

目次は次のとおりです。

序章	見えない自衛隊	6 頁
第一章	海軍	11
第二章	海の戦争	59
第三章	海軍消滅	109
第四章	空白の海	149
第五章	朝鮮掃海	197
第六章	スモールネービー Y委員会と海上自衛隊	262
第七章	胎動の海 保安庁警備隊	316
第八章	海上自衛隊誕生	386

終章 凌ぐ波濤 .....	470
あとがき	474
資料；組織図	484
年表	492
参照・引用文献	512
談話提供者	518

谷川清澄司令官(R)に係る内容は次のとおりです。

“序章”で、要するに自衛隊は国民から見えない巨大な組織なのであると、著者は指摘しています。

“第一章”全部は、谷川清澄司令官(R)が大正5年2月18日に長男として誕生してから谷川大尉が昭和17年6月5日に駆逐艦「嵐」水雷長としてミッドウェイ海戦に参加する迄の話です。

“第二章”後半は、谷川大尉が昭和17年に駆逐艦「嵐」水雷長としてガダルカナル輸送に従事してから谷川少佐が昭和20年5月に西海航空隊附兼横須賀航空隊教官（大分航空隊派遣）として高崎山萬寿寺別院の老師を訪問する迄の話です。

“第三章”後段は、谷川少佐が昭和20年8月に西海航空隊附兼横須賀航空隊教官（大分航空隊派遣）として大分航空基地の航空魚雷・銃器弾薬の集積・解体の指揮を執ってから谷川少佐(R)が昭和20年11月に佐世保地方復員局「第八号海防艦」艦長として軍人軍属の復員と民間人の引上げ輸送に従事する迄の話です。

“第四章”後段は、谷川少佐(R)が昭和22年6月に佐世保市の朝日実業(株)に入社し総務部長として鰯油加工の石鱈・マーガリンの生産・販売に従事しつつ昭和24年に戦犯容疑で召喚されたGHQリーガルセクションから無事に帰る迄の話です。

“第五章”中段は、谷川少佐(R)が昭和25年4月に大村市の松尾商事(株)に入社し佐世保駅前のレストラン“丹頂”支配人として見事に経営する話です。

“第六章”中段は、谷川少佐(R)が昭和26年秋に保科善四郎中将(R)から書簡を受領してから昭和27年1月に運輸省海上保安庁二等海上保安正に採用され同年5月に運輸省海上保安庁海上警備隊横須賀地方監部警備部警備課警備主任・三等海上警備正に補職される迄の話です。

“第七章”後段は、谷川三等警備正が昭和28年9月に保安庁警備隊佐世保地方総監部警備部警備課長兼訓練課長に補職される話です。

“第八章”後段は、谷川三等海佐が昭和29年8月に第1回航隊員（あさかぜ砲術長）として米国に赴いてから谷川海将が昭和48年7月に佐世保地方総監として退官する迄の話です。

“終章”全部は、防衛省昇格に当り谷川少佐(R)／海将(R)が「自衛隊を軍隊にしなければ、日本は本当の意味での独立国になれない。」と語る場面です。

“あとがき”で、映画「軍艦武藏」・書籍『軍艦武藏』で世話に為った元海上幕僚長古庄幸一氏が取材対象者の選定過程に於いて数名を推薦してくれた事及び谷川清澄氏に出会えて執筆者として幸運だった事に、著者は触れています。